

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人福翠会		
事業所名	グループホーム花の里 第一グループ		
所在地	諫早市福田町3316-3		
自己評価作成日	平成21年11月23日	評価結果市町村受理日	平成22年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人が安全で安心して生活が出来る様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊かな自然の丘陵にあり草花の香りがする住まいである。職員が各ユニットごとの理念を話し合い、ユニットケアに取り組んでいる。心安らく地域で利用者の想いを大切に、助けられたり助けたりで、笑顔のあるごく普通の暮らしで健康長寿を目指している。保育園・小学校との交流、移動図書館の利用、市と連携を図り医療制度改正の説明会を地域に呼びかけ開催している。地震や夜間想定火災訓練を毎月行い関係機関より高い評価を得ている。食事は選択できる日があり、白米か麦飯、フライか煮付け等、利用者が自己決定できる場面を作っている。又、シフトに配慮した職員向上の研修を多く行い利用者への支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時、理念を口に出して読み、日常生活の中で、取り組む様になっている。	職員が各ユニットごとに理念を作成し、ユニットケアの実践につなげている。いつも笑顔で朗らかに、地域の中で、助けられたり助けたりの関係づくりで皆で健康長寿を目指している。地域の中で利用者の想いを大切にし安らぎのある生活を支援するように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生との交流、ボランティアさんによる紙芝居等、地域との繋がりがあがる。又、移動図書館を利用し、さまざまな方との交流もある。	職員が夏祭りの案内を地域に配ってまわり、多くの方が集われている。後期高齢者医療制度の説明を市に依頼し、地域住民に声をかけて事業所内で説明会を開催している。市の移動図書館の受け入れやボランティアによる紙芝居がある。保育園や小学生との交流、町内の夏祭りに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、実践を踏まえ、地域の研修会合に出席し、認知症ケアの啓発に努め、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告、取り組みはもとより、理念にもとづいた利用者の生活を映像により報告、他の報告事項についても質問意見要望を受け、話し合い向上に活かしている。	今年度は運営推進会議は年4回開催している。開催案内と議題等を事前に参加者へ連絡し、意見要望の収集に努めている。参加メンバーは要件を満たし、外部評価の報告、目標の取組状況の他、利用者のごく普通の暮らしを映像化してユニットケアの取組を伝えている。	運営推進会議の回数は増えてきているが、2ヶ月に1回のペースで開催できるように、限定された参加メンバーのみならず、関係者が集まりやすいような考慮を含めた取組が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との接触の機会、度々あり、その都度、情報交換を行い活用してもらっている。	市とは併設の生活支援ハウスとのつながりで協力体制ができている。市の職員に依頼し、地域住民や職員の為に後期高齢者医療制度の説明を行うなどの連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の内容を日々のケアの中で、又、月1回の全体ミーティングの場で職員全員が認識し、共有し、実践している。	運営規定等に身体拘束は行わないことが明記されており、職員は言葉にも身体拘束があることを理解した上で、言葉かけにも配慮を行うようになっている。外部研修受講後は内部研修につなげて職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケア又、ミーティングの中で、高齢者虐待防止法に関する理解を浸透し、防止に努めている。		

グループホーム花の里(第一グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に活用している利用者がおられるが、必要と思われる利用者については、随時、職員が内容説明を行い、アドバイスをしながら支援に結びつける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、十分な説明を行い、家族には、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時、家族会、お便り等で折ある度に問いかけ、出された意見、要望等は、職員間で共有し、話し合い反映されている。	利用開始時に苦情受付の説明を行っており、玄関に意見箱を設置している。運営推進会議や家族会にて意見要望を言える機会があり、日常的にも口頭にて意見要望を言える関係がつくられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティング、月1回の職員会議等で意見を出し、運営者、管理者等と話す機会がある。	職員は利用者の状況に応じた対応がスムーズに行えるよう人員体制を検討・変更する取組を行っている。職員はユニットリーダーへ気軽に意見要望を伝えている。法人が支給するユニットごとに自由に使えるお金の用途については、職員が利用者のために有意義に使えるように話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日頃、現場に出向き、利用者と交流をもち、ミーティングには、必ず出席、職員が向上心を持って働ける様、声に耳を傾け、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修や、外である研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会があり、この研修に参加する事により、同業者との交流、事例研究等が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を傾聴し、信頼関係が築ける様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事等は、面会時や電話にて話合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族のニーズを把握し、現状を確認し、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思、権利を優先したサービスにより、共に過ごし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での本人の様子を面会時に話したり、電話にて伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす知人、友人と気軽に会える機会に恵まれ、継続的に交流が出来る。	利用開始時や日常の会話により、これまでの生活歴を把握し、馴染みの喫茶店に出かけたり、家族の協力により顔馴染みの方の訪問を受けている。家族へは利用者の写真や状況を毎月1回たよりで報告している。インターネットのブログを活用して事業所全体の近況を報告し馴染みの方との繋がりの一つになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や相性を把握し、誰もが関わり合える様、職員がクッションになり支援している。		

グループホーム花の里(第一グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時等、相談により、情報を提供し、他の事業所への紹介、連絡調整を行い支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーション、表情等で汲み取り意向の把握に努めている。理解する事が困難な場合、家族より情報を得ている。	職員は利用者とマンツーマンで話をする時間を大切にしている。利用開始時のアセスメント以外の情報や思いを聴き取り、24時間シートを活用し職員間で共有しながら日々の支援につなげている。趣味や興味のあることを把握し、生活の中に取り入れられるような支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族より情報を聞き出し、普段の生活を豊かにする取り組みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合わせた生活、心身状態を把握しており、少しの異変も見逃がさない様、努めている。日勤、夜勤等、申し送りを密に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、分担しており、ミーティング時や家族、関係者と話し、プランに反映している。	利用者や家族の要望と担当者の気づきや状況把握をもとに、利用者の望ましい生活援助計画を作成し長期短期の具体的な目標を設定している。具体的な内容の見直しは利用開始時は1~2ヶ月後、状態変化時は随時、通常は5~6ヶ月後にケアプラン実施記録表をもとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分、食事等、日誌に記録し、情報を皆で共有している。必要な方は、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望により柔軟に対応している。		

グループホーム花の里(第一グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	代表者が地域に出向き、情報交換する機会を設け、利用者が安心して暮らし続けられる様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、かかりつけ医が往診にきている。風邪や急変時、かかりつけ医に連絡したり、家族にも報告している。	事業所の協力医の他に、希望する病院へ受診している。協力医は2週間に1回の往診がある。受診内容については家族に連絡し、共に利用者の状態を把握している。また、看護師の配置により必要に応じた相談、助言の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化があった際、看護師に伝え、必要時、管理者に報告し、受診したり、来てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書を書き、病院へ渡している。又、職員が病院へ出向き、様子を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制で書類をとりかわす際に家族の意向を確認し、そのつど、かかりつけ医とも話し合い全員で方針を共有している。	必要に応じ、看取りに関する指針を利用者やご家族に説明し、事業所の体制や方針を伝えて看取りを行っている。職員は利用者との関係づくりができおり、最後までそばに寄り添えることができる思いを大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で看護師に質問したり、実践的に役立てる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、利用者と共に、避難訓練を行っている。地域協力体制は出来ている。消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。	避難訓練は年12回行い、夜間想定を含む火災訓練や地震訓練で避難経路や避難場所の確認及び利用者の誘導方法、消火器の取扱いを身につけている。災害時に地域の協力が得られるような体制である。また、防災の床やカーテンになっている。	

グループホーム花の里(第一グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に注意し、尊厳を守り、声かけしている。	運営規定や利用契約書の秘密保持に基づきプライバシーの確保を行っている。職員は利用者の尊厳を重視して、利用者の意思決定を促したり、さりげない言葉かけを行うなどの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、相手の目線に立ち、話したい事をゆっくりと傾聴し、自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きたい人、昼寝をしたい人等、本人の意志を尊重し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を着れない人等、声かけし、どれを着たいのか聞き、おしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の出来る事を把握し、分担して準備を行っている。	利用者は白い割烹着やエプロン姿で台所に立ち、器に合った盛りつけを楽しまれている。フライか煮付け、うどんかそば、白米か麦飯等と自己決定できる選択メニュー日がある。本を見せて希望するおやつを月2回作っている。職員と食卓を囲み、はったい粉等を食し、昔を回想する支援に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず行っている。		

グループホーム花の里(第一グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活の中でデータをとり、1人1人違った間隔でトイレ誘導を行い、失禁を減らしている。	薬の使用時や業務日誌に排泄の時間などを記載し、個別状況を職員間で共有しながら表情への配慮を行い支援をしている。おむつの使用量を減らしトイレでの自立支援につなげている。車椅子対応の広いトイレがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家事や掃除を共に行ったり、飲食物の工夫をし、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望で入浴出来る様にしている。	毎日入浴可能で、お湯を利用者毎に替えている。入浴剤を楽しむ利用者やリフト浴等の個別支援を行っている。入浴拒否の利用者へは時間をおいて声かけを行ったり、お風呂の効能を話した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファー、畳の間、居室等、1人1人の状況に応じて安心してゆっくり休息、眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診、通院時、その都度、処方箋に目を通し、薬の内容等、把握している。職員管理の下、確実に服薬出来る様、支援し、病状の変化も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、掃除、色塗り、おやつ作り等、職員と共に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コミュニケーションを密にし、本人が行きたい所を聞き出し、出かけている。	事業所は見晴らしの良い丘陵にあり日常的に木々や草花を取りに行き、見て香って食してと多様に楽しんでいる。近くの喫茶店に数人交代で出掛け、1階と2階のユニット間の交流や気分転換を行っている。車椅子利用の方や個人の買い物支援を行っている。	

グループホーム花の里(第一グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	部屋にお金を置いたり、金庫にて保管し、いつでも使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ手紙、ハガキを書く際、書けない方は、代筆し、送っている。本人に手紙等、届いた時、電話のやりとりの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を利用者と共に生け、空間にそれとなく米、茶碗を洗う音、おかずの炊ける臭い等、又、匂を先取りし、五感や季節感を取り入れる工夫をしている。	居間は広く、畳や光がさしこむソファの配置で茶の間としてくつろげるような配慮になっている。、テレビ、昼寝、本を読むなど日中の時間を過ごされている。見晴らしの良いテラスで体操やテーブルを囲んでお茶を楽しんでいる。季節の花や飾り物、小学生との交流の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと座れる椅子、ベンチ、ソファ、畳があり、日光がよく当たる時は、畳にてうたた寝をされたり、ソファにて本を読まれたり、毛糸と指編みをしたり、テレビを見たりと、個人個人で、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台、本、タンス、ぬいぐるみ等、居室へ持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫をしている。	エアコンと洗面台は据え付けであり、利用者が使い慣れた寝具やたんす、ご家族の写真、手芸作品、表彰状など、各利用者の想いや普段の暮らしがうかがえる居心地の良い部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の置き場所は、入居者の動きに合わせ、危険の無い様に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人 福翠会		
事業所名	グループホーム花の里 第二グループ		
所在地	長崎県諫早市福田町3316-3		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合評価機構長崎事務所		
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大事にして、その人らしい生活を送れる援助を常に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係性を強化できるよう、全職員で話し合い、理念を作っている。また、申し送り時に唱和し、理念に沿った支援を取り組むよう、意識し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な付き合いが出来るように散歩に出かけ、近隣住民へ声かけを行っている。また、行事の際には案内を出している。また、ボランティアの受入れ、園児との交流を深めている。地域行事には、参加し、交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人的地域貢献の一助として、ボランティアや、実習生の受入れをはじめ、小、中学生の施設見学も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告を行い、市担当者、民生委員、家族代表を交え、意見交換を行い、改善へとつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は常に行っており、相互の情報提供、実態等、共有して取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない介護を意識しながら、日々、支援している。また、身体拘束に関わる事については、諸会議の中で、常に、協力事項の一つとして取り上げ、職員間の意識づけを図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等はない。言葉は常に職員間で指摘し合いながら、意識して支援を行っている。		

グループホーム花の里(第二グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームの連絡協議会に参加したり、事業所での研修会を行い、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書を交わし、説明を密に行い、理解、納得された上で、捺印してもらい、書面を渡し納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族にとって話しやすい環境を作れるよう心掛けており、苦情、小さな意見、気づき等、受入れ、申し送り、ミーティング等を行い、対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、週1回のミーティング時に、職員からの意見を聞く機会を設けて、反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年毎に、個別の面会や、アンケート等を実施し、個別の業務や、思いを把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修に参加できるようにし、また、法人内外で研修を行ったり、皆で研修内容等を共有し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問を行ったり、勉強会等で知った、他事業所の優れた意見や、経験・実践をケアに活かすようにしている。		

グループホーム花の里(第二グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族及び本人と面談し、生活状況の把握に努めている。また、本人の思いに向き合い、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話し合いを行い、家族の要望等を把握し、事業所としてはどのような対応が出来るかを伝えている。また、今までの経緯や思い等をゆっくりと話す機会をつくり、相談、思いを話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族の状況、思いを把握して、改善に向けた支援の提供をしたり、必要としているサービスを見極め、必要に応じ、他サービス機関につなげる等、家族の意向に沿うように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、料理、園芸、昔の事等、入居者に教えてもらう場面作りを行っている。また、日々の生活の中で、職員と一緒に楽しみ、不安を分かち合う気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の生活の様子をきめ細かく伝えて、共に支えていく為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を尊重し、知人、友人と継続的な交流が出来るように、機会を設け、働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の関係や、個性をうまく活かす配慮をしながら、支えあう環境作りに努めている。		

グループホーム花の里(第二グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談の内容等に応じて、他機関紹介や、連絡調整を行い、次につなげる相談や、その意向に沿った対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話、表情、行動等から、本人の意思を汲み取り、把握に努めている。また、家族等にも意思を聞いたり、相談を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人から、情報を聞き、また、入居後も知人、家族等の訪問の際に、お話して、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりのアセスメントシートを作成し、生活のリズムを把握し、行動、言動、表情を感じ取るようしている。また、出来る事、出来ない事、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、入居者及び家族より意見、思いを聞き、介護計画を作成している。また、ニーズ発生時には、すぐ、モニタリングを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に具体的に記録し、皆で共有している。また、ニーズ発生時等には、すぐミーティング等を行い、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況、意向等に応じ、ショートの入入れを行う等、柔軟に対応している。今後もニーズに応じ、様々な社会資源の活用も視野に入れながら、対応していく。		

グループホーム花の里(第二グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会、消防署、民生委員等と協力しながら支援している。また、ボランティアの受入れ、園児との交流も実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の同意のもと、2週間に1回、かかりつけ医の往診を受けている。また、状態変化時には、早期に連絡を行い、適切な対応の指示を受け、支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気軽に相談できる医療連携の看護師が同敷地内に従事しており、日々相談等を行い、支持を受け、支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、グループホームでの対応が可能な段階であれば、退院支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで重度化や、終末期を支えていけるか見極め、主治医との連携をとり、その所見を家族等に伝える等、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、周知徹底を行っている。また、応急手当等の勉強会を実施し、グループホーム連絡協議会等の研修にも参加し、備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を行っている。また、消防署の協力を得て、消火器等の使い方を身につけている。		

グループホーム花の里(第二グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、入居者の自尊心、プライバシーを損ねないような対応に日々、心がけ、支援を行っている。また、ミーティング時等に定期的に確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりに応じた方法で、出来るだけ、自分で選択をし、決定をする場面を意識して作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に、行動、表情等を見極め、対応を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者、1人ひとりの好み、希望をその都度聞き、支援している。また、鏡に向かう時間を取り入れ、その人らしい身だしなみに心がけている。また、理髪師の訪問もあり、希望に応じ散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け等を入居者と共に行い、共に同じテーブルを囲む等し、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りを大切にしている。また、好みの茶碗や食器を使い、楽しく食べてもらえるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士に相談を行っている。食事、水分摂取量は、個人表に記録し把握している。また、1人ひとりの状態に応じて、食事形態を工夫している。また、体調等に応じ、補助食品等を使用する等、常に健康状態や栄養バランスに心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者に口腔ケアの呼びかけや、1人ひとりの状況に合わせた、介助、一部介助で支援し、最後に口腔内チェックを行い、清潔保持に努めている。また、就寝前に、義歯洗浄を行っている。		

グループホーム花の里(第二グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、時間誘導を行ったり、入居者の様子から、察知し、トイレでの排泄を大切にしている。また、個々に応じた、パッドを常に検討し、使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し水分(コーヒー、牛乳等)、運動、下剤等を個々に応じ、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のその日の希望を確認し、午前、午後等に入ってもらよう配慮している。また、ゆっくりと入れるように、マンツーマン入浴を実施し、入浴剤を使用する等、ゆったりと入浴を楽しんでもらうよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態、希望に応じ、自室及びソファ等で休息してもらよう支援している。また、個々に応じて、夜間、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌に、各自が服薬されている薬のファイルを添付し、職員が内容を把握出来るようにしている。また、必要に応じて、看護師、医師等に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、1人ひとりの出来ることを大切に、掃除機がけ、拭き掃除、洗濯物干し、たたみ、食器拭き、花の世話、台所仕事等を依頼したり、職員と共に行っている。そうして、生活歴を活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの習慣、楽しみごとに合わせて、喫茶店、買物等に出かけるよう支援している。また、季節感を感じてもらえ、楽しみにつなげるよう、花見、ドライブ、買物等に出かけ、外出の機会を作り、支援している。		

グループホーム花の里(第二グループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせて、金銭管理を行っている。外出、行事時には、自分でお金を払っていただけるよう、お金を手渡す等の工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を出すための支援を実施している。また、個々の希望に応じて、手紙、電話を出せるように工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な物、なじみのある物を出来るだけ多く取り入れる工夫をしている。また、入居者に合わせ、テレビ、音楽の音量、日差し等により、照明の明るさを配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で腰掛けられるソファやベンチを廊下や、デッキ、窓側等に置き、それぞれが、自由にくつろぎ過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具、布団、飾り物等を持ち込み、馴染みのある環境作りを行っている。また、その時々状態等に応じてながら、柔軟に対応するよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮する等、環境整備に努めている。状態等が変化した際等には、その都度、職員間で話し合い、本人の不安、混乱材料を取り除き、自立支援につなげるよう努めている。		